

2022年
9月発行

休日OK ほうかごOK 授業OK
SAPPORO サタデースクール通信

札幌市教育委員会生涯学習推進課

今年度より、サッポロサタデースクール事業は、**平日放課後**や、**授業時間**も選択できるようになりました！！（今年度実施校のうち約8割の学校で平日開催）

昨今、急激な社会の変化に伴い、学校の抱える課題が複雑化・多様化しており、学校だけでは解決が難しくなっている現状や、地域社会のつながりや支え合いの希薄化により地域の教育力が低下していることなど、様々な問題が挙げられています。このような問題に対応していくには、地域と学校が一体となって、子どもたちの成長を支えていくことが必要であり、文部科学省では「**地域学校協働活動**」を全国的に推進しています。

サタデースクール事業は、地域学校協働活動の取組の1つです。地域の人材や企業等の社会資源、地域における様々な活動等を活用し、子どもたちを対象に多様な学び・体験の機会＝「プログラム」を提供します。このプログラムの企画・調整・実施を通して、地域と学校の連携・協働の体制づくりを進めるとともに、地域全体で子どもを育てる意識の向上を図ることを目的としています。

サタデースクール、今年度から平日もできるようになったけど、

今までと何が
違うの？

やりやすく
なったの？

実際に関わる人
たちの反応は？

良い取組なのかもしれないけど、うちでやるのは難しいかな・・・、

そんな思いや疑問にお応えしたいため、
関係する皆さんへ、**インタビューを実施しました！！**



今回、実際に計画してみて、
私が感じたことお話しします！

今回ご協力いただいたのは、今年度から初めて実施する学校の校長先生です。
学校現場のリアルな声をお届けします！ ▶チラシ裏面へGO！！

*** 走り方教室（授業時間）【新琴似北小学校サタデースクール事業運営協議会】 ***

事例紹介



例年、運動会に向けて多くの学校で取組んでいただいている走り方教室。今年度、新琴似北小学校では1・2年生の体育の時間を活用して開催しました。

講師の選定には、運営協議会のコーディネーターが調整窓口となり、陸上コーチ等で活躍している「政スポーツアカデミー」の横谷政一氏を外部講師として招聘しました。

プログラムでは、講師の掛け声とともに、身体全体の動きを意識させるような練習が行われていました。子どもたちは、いつもと違う方法で走り方を学ぶことができ、目を輝かせながら非常に楽しそうに練習しているのが印象的でした。今回初めてとなる授業時間での活動でしたが、コーディネーターの方も一緒になって場を盛り上げ、地域と学校が協働する素晴らしい取組内容でした。





サタデースクールインタビュー：第1回「学校編」



今年度初めてサタデースクールを実施する学校へお伺いしました。今回、サタデースクールをやってみようと思った経緯を教えてください。

まず、正直にお話ししたいのは、これまでもサタデースクールは、子どもたちにとって大変意義のある活動だと思っていましたが、休日限定ということでは、地域や保護者、さらには休日に出勤する教員の負担が大きいことを懸念しておりました。また、休日ではかえって、家庭の用事などで、子どもたちの参加が難しいことも多く、参加者が固定化するようにも感じていました。



これまでの制度では取組にくい部分があった・・・ということですね。

はい。しかしながら、今回、平日拡大ということで、子どもたちはもちろん、学校にとっても、地域にとってもメリットのある活動にできるかもしれないと、大いに可能性を感じたところです。



具体的にいますと？

平日拡大ということで、

- ① 放課後や授業で活用できますので、これまで以上に多くの子どもたちが体験活動に参加できます。サタデースクールの予算を活用することで、今まで呼べなかったゲストティーチャーも選択肢に入れることができました。
- ② 教員の勤務時間内で授業等勤務に則した活用が可能になりました。地域の方に講師との調整や、運営面を御協力いただくことで、学校としても負担を最小限に、メリットのある活動が期待できます。
- ③ 地域の方にとっても社会教育活動への参加の機会が増えると思います。今後、活動を継続することで、より学校を身近に感じてもらい、色々な場面で良き相談役になってもらえるような可能性を感じています。





ありがとうございます。地域学校協働活動は社会に開かれた教育課程や教職員の働き方改革の効果実現が目的として挙げられています。今回、サタデースクールの平日拡大はそういった効果への後押しが期待できますね。

それでは、今年度は実際にどのような活動を計画していますか？

ひとつ、例を挙げますと、本校では、平日の放課後、懇談時に合わせてサタデースクールを実施する予定です。低学年の子どもたちの預かりも目的の一つとし、子どもにとっては学校に居る安心感をもって、いつもとは違う有意義な活動を体験できると思います。そうすることで、保護者の皆さんも安心して、懇談に参加できると考えています。



運営は、日ごろからお世話になっている子ども会の方を中心にお願いしています。子ども会が積み上げてきた活動や人脈を最大限生かすことで、関係者にとって新たな負担が生じることは少ないと考えています。



ここまでメリットの部分をお話しいただきましたが、実際に計画してみても課題を感じる部分はありますか？

学校やその地域によって状況は様々ですので、学校が必ずしも地域のキーマンを探し出せているとは限りません。その点、本校は恵まれていたかもしれませんね。

ただ、どこの地域でも一定程度、町内会活動などの地域活動は行われており、交通安全の見守りや、ラジオ体操、お祭りなどの各種行事が行われていると思います。



そういったところから地域の人材とつながることで、子どもたちはもちろんのこと、学校や地域、関係する皆さんがお互いにメリットのある「win、winの関係」をつくることができると思います。



ありがとうございました。サタデースクールを含む地域学校協働活動では、地域と学校をつなぐことのできる、地域のキーマン「コーディネーター」の役割が必要不可欠です。

教育委員会では、コーディネーターの配置や、運営協議会新設の支援のため、学校へ訪問しヒアリング調査を実施しております。希望がございましたら、是非、御連絡をお願いします（連絡先はチラシの最後）。

次回予告：サタデースクールインタビュー第2回「地域編」





プログラムの企画条件



☺ 既にある取組でも、実施に向けた準備・連絡調整を運営協議会が担うことにより、サタデースクールのプログラムに位置付けることができます。

企画・調整	運営協議会 コーディネーター（地域人材）が中心となって、活動します。 
内容	下記4種の分野のいずれかに分類できるもの 複数の分野にまたがっても構いません。オンラインの活用も可能です。
学習支援	体験活動
地域人材を講師・指導者として行う、学校周辺の地域について知る学習、地域の魅力発信や課題解決を考える学習、放課後等の学習支援など 	文化・芸術や自然体験、ボランティア活動、職業体験などの多様な活動 
体力・健康づくり	地域交流
体力づくり、運動能力の向上、規則正しい生活習慣（食事・睡眠等）につながる学習や活動 	幅広い年代との様々な交流、地域行事への参画等による地域貢献活動 
参加対象	運営協議会を構成する学校の児童生徒 内容により、兄弟姉妹や保護者、地域住民の参加も可能です。
実施日	平日・休日・教育課程内外を問いません 教育課程内（授業時間等）での実施は、学校の監督のもとで実施する必要があります。
参加費	原則無料 ただし、参加者個人がその場で食べたり、作ったものを持ち帰ったりするプログラムでは、参加者から実費相当額を徴収して食材・材料の購入に充てます
講師等	できること・得意なことを教えることができる地域住民の方 内容に関する専門知識をお持ちの団体・企業の方 など 内容により、進行役のみでの実施も可能です。 
スタッフ	運営協議会構成員のほか、地域住民・団体からボランティアを募集



サッポロサタデースクールのご相談・お問い合わせは
札幌市教育委員会生涯学習推進課 まで

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目STV北2条ビル4階
 電話 011-211-3872 F A X 011-211-3873

サタデースクール
 HPはこちらから



2023年
1月発行

休日OK ほうかごOK 授業OK SAP DO サタデースクール通信

札幌市教育委員会生涯学習推進課

昨年も感染症等で落ち着かない1年でしたが、学校では、子どもたちの学びのため、様々な工夫をしながら学習活動に取り組んでいただきました。2023年卯年は「飛び跳ねる」飛躍・向上の年だそうです。1人でも多くの子どもたちが飛躍の1年となりますように！

今回は各実施校において放課後や授業で行われた活動の事例紹介と「サタデースクールインタビュー【地域編】」をお届けします。

事例紹介

①



*** 放課後の理容・美容師職業体験【発寒西小学校】 ***

「ハッチャムひろば」の愛称のもと、平日放課後、地域の方を講師に、理容・美容師の職業体験学習が行われました。

プロが使う本物の「ハサミ」を使用して、初めてのカット体験（1人1台マネキンが用意されてました）。髪を切ってもらうなど多くの子どもたちが接したことのある身近な職業を体験することで、仕事の楽しさや難しさを知ってもらう良い機会となりました。

また、安全面を考慮して保護者にも参加していただき、親子皆で楽しく活動できました。



*** 保護者懇談時の読書・折り紙体験【屯田南小学校】 ***

2年生の保護者懇談の時間を活用し、前半は読書活動、後半は折り紙を使ったクリスマスカード、紙飛行機を作成する体験活動が行われました。

講師は、地域の子ども会で活動されている方や、スクールガードに従事されている方など、子どもたちにとって顔馴染みの面々。講師の姿を見ると、子どもたちがすぐに集まって、次々と話しかけていたのが印象的でした。

そんな和気あいあいとした雰囲気の中で行われた活動は、冬休みの読書感想文の練習にもなるなど、楽しい中にもしっかりと学びのあるひと時となりました。

終盤には懇談を終えた保護者も一緒になって参加し、大変な賑わいとなりました。





サタデースクールインタビュー：第2回「地域編」



私たち市教委職員が活動に関係する皆さんへお話しを聞きました。今回は、「地域編」としてインタビューをお届けします！



コーディネーターNさん

Q1 コーディネーターになった経緯を教えてください。

Nさん) 普段は地域の子ども会で活動しているのですが、昔から学校には色々なことで顔を出してきました。そういう縁もあって、今回学校から、サタデースクールをやるということで相談があり、二つ返事で引き受けることにしました。



保護者Sさん

Q2 プログラムはどのように企画していますか？

Nさん) 基本的には子ども会でやってきたことを、学校の意向に合わせてやるようにしています。どちらの活動も子どものためにやっていることです。今まで取組んできたことをそのまま活用することができました。

Q3 これまで行ってきた子ども会の活動とサタデースクールの活動で何か違いはありましたか？

Nさん) 活動の内容自体そこまで違いはないと思いますが、ひとつ嬉しい変化として、サタデースクールを通じて現役のPTAの皆さんと交流できるようになりました。サタデースクールで企画したプログラムにはPTAの皆さんにも手伝ってもらっています。

Q4 サタデースクールに参加した保護者Sさんの感想をお聞かせください。

Sさん) 学校の中の活動なので子どもを通わせやすいですし、特に放課後ですと外に出ないでそのまま参加できるのでとても安心です。そして何よりも、地域の方との交流は子どもにとって大切な経験ですし、色々な学びに繋がると感じています。地域皆で子どもを見守っている雰囲気が嬉しくて、私たちも学校や皆さんの助けになればと思って参加しています。

Q5 最後に、Nさんがこうした活動に参加する意義を教えてください。

Nさん) 子どもたちが大人になったときに、こういった体験を次の子どもたちにしてもらいたいと思っています。この経験が子どもたちの記憶に残ってくれば、どこかのタイミングで思い出して、何かの役に立つかもしれません。そういった経験は学校の中だけでは難しいことかもしれません。地域には私たちのような人がいると思いますので、地域も当事者意識を持って、学校だけではなく皆で協力ができればいいと思っています。





コーディネーターFさん

Q 1 コーディネーターになった経緯を教えてください。

もともと学校の教員として働いていました。退職後も子どもたちに色々な体験を提供したいという思いから、学校と相談してコーディネーターとして活動することにしました。

活動を通じて今何よりも思うのが、教員の負担を軽減したいということです。そうすることで、結果として子どもたちのためになると考えています。

Q 2 学校とはどのようにやり取りをされていますか？

今も仕事をしているのですが、日中は割と時間の自由が効くので、その時間を活用して学校へ行って打合せや作業をしています。

ただ、学校も忙しいので、プログラム毎に担当の先生を立ててもらい、パソコンでメールのやり取りをすることがあります。学校に行ってもPTA室をお貸しいただけているので、そこで作業をするようにしています。

Q 3 先ほど、教員の負担軽減といった話がありましたが、具体的にどのような点を意識されていますか？

プログラムの基本的な企画はもちろんですが、講師等地域の人材を集めることや、外部との調整を私がやるようにしています。学校として、子どもたちのために色々やりたいアイデアはあると思うのですが、誰に頼むか、誰が調整するかというところで止まってしまう。そこを私が担うようにしています。

Q 4 地域の人材を集めるコツはありますか？

地域側としてはアンテナを張って色々な活動に顔を出すことです。そこで自然と繋がりができてきます。コミュニケーションの力は大事です。

学校としては、コーディネーターを探すのに苦勞するかもしれませんが、今すでに取組んでいる活動でまずは目星をつける。その後活動していると、人が集まってきます。私の企画したプログラムでも個々に活動していた地域の人材が集まり、それがきっかけで1つのネットワークができました。

Q 5 最後に、地域と学校それぞれの側面から見て、地域学校協働活動に期待する効果としてどのようなことがあるでしょうか。

私が学校にいた時に思っていたこととして、本当に教員がやるべきことなのかと疑問に思うことがいくつかあったことです。コロナ禍の消毒作業も本当に大変なことで、地域にお願いできないかと何度も考えました。先ほどもお話ししましたが、子どものためにやりたいことはいっぱいあるのですが、「誰がやるの?」、「誰にお願いするの?」で止まってしまう。

そういった時に、地域学校協働活動というお願いのできる「受け皿」があることで、学校も色々なことに取組める環境が作られます。ここでのネットワークが地域やPTAにしても、自分たちのために横の繋がりとなって、色々な活動に発展できます。まさに学校を核とした地域づくりではないでしょうか。

インタビューに御協力いただきました皆様、ありがとうございました。



事例紹介
②

*** 6名の地域人材によるキャリア教育【星置中学校】 ***

2年生の教育課程内において、地域で働いている6名の方を講師に招き、キャリア教育が行われました。集まったのはスーパー店長や幼稚園園長、簡易郵便局長、農家や事業所の社長に元校長先生と様々な業種の方たち。

身近で活躍する「地域の大人」の話しに、生徒たちは、働く喜びや、やりがい、苦労話などをより現実味を感じながら聞くことができた様子でした。

また、普段自分たちを支えてくれている地域の方々へ感謝に繋げる良い機会となりました。講師の方たちも、愛着のある地域の子もたちと話せたことに、「私たちも楽しみながら参加できました。」と言っていたのが印象的でした。

今回、講師を集め、打合せ等のやり取りをしたのは、地域のコーディネーターです。学校の負担軽減に役立つ取組事例でした。



*** 開校150周年企画「先輩」によるキャリア教育【手稲東小学校】 ***

6年生の総合的な学習、自分達の夢を考える「夢に向かって」の一コマを活用し、卒業生でミスユニバース世界大会準グランプリの方を講師に招き、キャリア教育が実施されました。

講師の方はコンテスト等で輝かしい実績を持っていますが、小学生の時に負った目の障害を抱えており、たゆまぬ努力の結果、大切な夢を実現させることができました。明るく話すその姿は、子どもたちにとって大きな希望となった様子でした。

また、「先輩」の話は、自分達にとってより身近なものとして実感できたようで、夢は実現できると思える大切なひと時となりました。



本事業に係るご相談・お問い合わせは
札幌市教育委員会生涯学習推進課 まで
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目STV北2条ビル4階
 電話 011-211-3872 FAX 011-211-3873



【テーマ①】▶**学びに対する無関心層にどう働きかけるか**

- ★子育て家庭を孤立させないためにも、様々な体験に興味がない家庭に、どうやって関心を持たせるかが大事
- ★高齢者の孤立を防ぎ、生きがいにつなげるためにも、いろいろな情報をタイムリーに届けることが重要
- ★学びに無関心な人に興味を持たせるのは難しいが、どのようなアプローチをすれば効果があると考えられるか
- ★新しい施設を作ることは難しいが、今ある資源を活かして、どのようなことができるか

【札幌市図書・情報館～視察】

- 『はたらくをらくにする』をコンセプトに掲げ、特に都心で働く人や起業を目指す人などを支援する課題解決型図書館。
- 課題解決に役立つため、いつでも最新の図書・情報が手に入るようにしている。→貸出はしない
- 「WORK」「LIFE」「ART」の三つのエリアに分け、分野ごとに専門的な図書等を配置。
- 日本十進分類法ではなく、司書がそれぞれテーマに沿った本棚作りをしている。→本棚がおもしろいと評価
- リサーチカウンターでは、司書のサポートだけでなく、関連機関と連携した相談を実施。
- 本を借りる場所ではなく、アイデアが飛び交う場。→問題を解決し、頭をクリアにできる場所。
- 飲食も会話も可能であり、自由な空間（現在はコロナの影響のため、食は不可）。席の予約も可能。

はたらくをらくにする。



【札幌市図書・情報館の視察を終えて】

- 「学ぶ」「生涯学習」という言葉に抵抗感があるのではないか。
学びにつながることを身近に感じてもらう工夫が必要ではないか。（あえて「遊び（play）」と表現するなど）
- 「学び」とは、と構えてしまうと重く感じてしまう。
それぞれの興味関心に働きかける、「身近なきっかけづくり」が大事ではないか。
- 学ぶきっかけは、日々の生活の中で自然に生まれてくる、その人にとって「必要なこと」にある。
「必要なこと」は誰でもスマホで検索することはあるが、学びや行動に移すためには、そこからさらに次のステップに向かうよう働きかけることが大事で、そのためには、検索の次に「必要な情報」につなげることが大事。
- 「学ぶ」＝「学習」にしてしまわないことが大事ではないか。（「学習」はどうしても学校教育のイメージにつながる）
図書・情報館は、常に学びを必要としている「人」の目線に立って、それぞれが抱える「悩み」＝テーマに寄り添った対応をしており、これが効果的だと感じる。

どのような具体策が
考えられるか？



【テーマ①】 ▶ **学びに対する無関心層にどう働きかけるか**

- ★子育て家庭を孤立させないためにも、様々な体験に興味がない家庭に、どうやって関心を持たせるかが大事
- ★高齢者の孤立を防ぎ、生きがいにつなげるためにも、いろんな情報をタイムリーに届けることが重要
- ★学びに無関心な人に興味を持たせるのは難しいが、どのようなアプローチをすれば効果があると考えられるか
- ★新しい施設を作ることは難しいが、今ある資源を活かして、どのようなことができるか

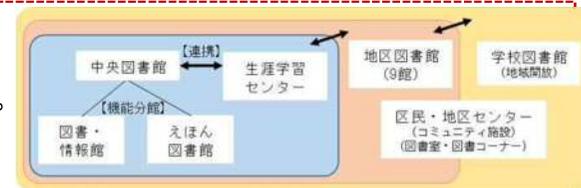
都心
市内の学習拠点
地域

○札幌市図書・情報館

- ・「札幌市図書・情報館」「札幌文化芸術劇場（hitaru）」「札幌文化芸術交流センター（SCARTS）」の3施設からなる複合施設「市民交流プラザ」にある図書施設。
- ・再開発事業により2018年に開館。
- ・劇場と文化芸術交流センターは、公財）札幌市芸術文化財団を指定管理者とし、図書・情報館は市直営。
- ・民間企業が入居するビルと一体となっており、都心部における新たな交流の場として、活用されている。
- ・「図書・情報館」は貸出をしない「課題解決型図書館」の取組みが評価され、2019年Library of the Yearを受賞している。

○札幌における生涯学習環境（施設）

- ・各区には区民センターがあり、サークル活動や区民講座の場となっている。
- ・区民センターのほかに地区センターがあり、身近な地域活動の場となっている。
- ・区民センターや地区センターには図書館の機能もある。
- ・各区に地区図書館があり、学びを深める場となっている。
- ・さらに地域では、学校図書館地域開放事業も実施している。
- ・全市的な生涯学習の中核施設として「生涯学習センター」と「中央図書館」がある。



【テーマ②】 ▶ **学びをボランティア活動やまちづくり活動につなげるには何が必要か**

- ★「学び」は個人的なものであるが、学んだことはやってみたくはなるはず
- ★学んだ成果を実践（行動）に結びつけることで、生きがいや人生の楽しみにつながる
- ★実践（行動）した結果が誰かのためになれば、それがやりがいになり、その輪が広がれば「まちの活性化」につながる
- ★学んだことを自らの意思で実際の行動に移してもらう（ボランティア活動）ためには、どのような工夫（仕掛け）が有効か

※「ボランティア」とは…

- ・意味は「自分の意思で自ら進んでやること」で、自発的な意思で人や社会に貢献すること
- ・定義は「仕事、学業とは別に地域や社会のために時間や労力、知識、技能などを提供する活動」
- ・ボランティアの4原則
 - 【自発性・自主性】＝自ら進んで行動する
 - 【無償性・互酬性】＝見返りは求めない
 - 【社会性・連帯性】＝互いに助け合いながら行動する
 - 【先駆性・創造性】＝仕組みや枠組みにとらわれず、何が必要か考えて実施する